

精神科看護における対人関係論の伝承～宮本真巳先生と語ろう～

○津田 哲也¹⁾、宮本 真巳²⁾

1) 国立精神・神経医療研究センター病院 医療観察法病棟勤務、2) 元亀田医療大学看護学部

精神看護における対人関係を基盤とした態度は、非常に大切であることに異論を唱える人はいないでしょうが、現在、この基盤から精神看護を語れる教育者は減っているのではないのでしょうか。ペプロウ・オーランド・ウィーデンバックといったプロセスレコードの原型を作った先人たちの知恵を、日本では、宮本真巳先生をはじめとするレジェンドが、現場に即した理論として教育してくださっています。この度、本ワークショップでは、宮本先生と対話をするを通じて、若い看護者に対人関係の基盤を語り継いでいけたらと思います。宮本先生は対人関係における「異和感」に着目し、その異和感を基として関係を構築する意義を説かれます。本ワークショップでは、会場のみなさまから宮本先生に「問

いかけ」をしていただき、それに先生が返答することから始まります。会場でのみなさまの「異和感」そのものが、本ワークショップの要となるように運営できたらと思っています

ですから、どのような内容のワークショップになるかは、先生と皆さまとの応酬によって決まります。

このようなTグループ的要素も踏まえて、会が進行できたらと思っています。またとない機会ですので、みなさまぜひ、ご参加ください。

なお、参加はどのような立場の方の参加も歓迎します。これまで宮本先生にお会いしたことのない方はもちろん、十分、親交を深めて来られた方も含めて、どなたのご参加も楽しみにしております。